

紙芝居屋さんを街角の風景に戻す

<http://www.sasaki-sasaki.com/>

街頭紙芝居の価値

- ・日本で生まれた日本にしかない風俗（場 / 語り口 / 原画）
- ・ストリートカルチャー（昭和恐慌や敗戦時、失業者や復員兵が溢れる暮らしが生み出した風俗）
- ・日本マンガの源流のひとつ

街頭紙芝居における、保存とその問題点

<場の保存>誰でも街角で紙芝居屋さんが始められる、インフラづくり

- ・現在、路上で菓子を売りながらの紙芝居はできない。（最後の紙芝居師免許も、昭和57年失効）
- ・街頭紙芝居では生計を立てられない。
- ・時勢柄、知らない大人への警戒心が強い。外で遊んでいる子供が少ない。
- ・原画が利用できない。

<語り口・読み方の保存>継承していく伝統芸能ではなく、誰でも始められる商売としての読み方

イベントしかできなくなって久しいので、現在ではパフォーマンスとして様々な発展をみせている。反面、子供の注意を引くため精練された「独特な語り口」が失われ、「読む」から「演じる」へ変化してきている。

<原画の保存と利用>誰でも原画を閲覧し利用できる、環境づくり

保存：原画は手描きの一点物だが、貸元がほぼ潰れてしまい市場に出ても価値が低いため、あまり残っていない。

街頭紙芝居は都市部中心の風俗なので、戦前の原画は空襲により焼けてしまったものが多い。

利用：原画は手描きの一点物だと認知されていくと同時に保存の動きは広がってきたが、そのため逆に原画を利用することは難しくなっている。街頭紙芝居は日本固有の風俗なため海外でも研究対象になっているが、研究者でも見せてもらえない場合もあり、一般の人が実演に使うことは購入しない限り難しい。

街頭紙芝居を街角の風景に戻すための一例

- ・「紙芝居屋さん」として市区町村で登録し、身元を明確にした定年退職者などが、地域で第二の人生を送る。
- ・原画を保存する際に写真を撮ってデータベースを作ること、原画を痛めず誰でも自由に閲覧や研究ができ、データをダウンロードすることで、誰でも自由に利用できるようにする。

街頭紙芝居を街角の風景に戻すことによる効果

<子供>

- ・家庭と学校以外の場をもつことで、「よその大人との社会」「年齢の異なる友達との社会」が得られる。
- ・家庭と学校以外の、社会のルールを学べる。（人間関係の作り方 / お金の使い方 / 礼儀など）
- ・地域に住む子供達を知っている紙芝居屋さんが街角にいて、「安全な地域」になる。

<大人>

- ・仕事一筋だった定年退職者などが、地域に溶け込み次世代との繋がりを持つ。
- ・「地域の子供との時間」「地域貢献」「探究心」「風俗の保存」「年金外収入」などの生き甲斐をもてる。

<地域>

- ・「特色ある街づくり」「まちおこし」「地域内の繋がり」「地域活性化」「いじめやひこもり等の教育問題対策」など。

街頭紙芝居を街角の風景に戻すための対策

- ・メディア出演を通し、「価値 / 魅力 / 現状の認知」「復活への応援の声」を得ていく。
- ・カルチャースクールなどで講座を開き、興味を持つ人や取り組む人を増やしていく。
- ・メディアとしての特異性（いつもの公園がおじさんと子供たちとの場になり、またいつもの公園に戻る）を、現代社会で生かせないか模索する。